

みんなあでつながる!ひろげる!地域のチカラ

プラットふくし

こ

う

ち

高知県社会福祉協議会広報誌



被災地で 活躍する DWAT

2025
8月号

vol.13

contents

特集「被災地で活躍する DWAT」	2
ボランティア・NPO 情報 てをつなGO!	6
こうち減災女子部 高知大学防災すけっと隊	
シニアのちょっといい話	8
こうちシニアスポーツ交流大会 2025	
プラットこうち人 山本稜平さん	10
高知県社協からのお知らせ	11
こうちの sweet なハナシ	12
就労支援センターらいふ 橋原竹ぼうきの会	

3

高知県DWATにとって能登半島地震は初めての派遣活動となりましたが、派遣までの流れについて教えてください。

元旦に発災し、1月4日に高知県DWAT事務局からメールで被害状況等の情報共有がありました。

この時点では高知県DWATには派遣要請がなく、活動はないとのことでしたが、その数日後、避難生活の長期化や様々な支援活動が現地において必要とされている状況等を踏まえて全国のDWATに派遣要請が出たとの連絡がありました。すぐに派遣に対応できるかどうかの調査があり、家族や同僚等と相談しながら、1週間程度高知を離れても大丈夫かどうかの調整を行いました。

高知県DWATは、2月の派遣活動はなく、3月に活動することが決定したと事務局から連絡があったのが、2月14日ごろでした。そこからすぐに航空券等の手配を行い、活動マニュアルを確認しながら荷物の準備等を行いました。

DWATのチーム員として
普通に
取り組んでいることはありますか？

年に1回必ず受講しなくてはならない研修があり、被災地で一緒に活動することになるDMAT(災害派遣医療チーム)やDHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)等の専門職チームの活動を学んだり、活動実績のある他県DWATの取組を聞きながら、高知県DWATとしての活動を深化させています。

ほかにも、リーダーとしてのスキルアップを図る研修やアセスメントの実践訓練等が行われていて、なるべく参加するようにしています。また、DWAT活動の広報をしていくことも必要ですので、県の主催するイベント等への出席に参加したりしています。

終了後はどのような取組をしましたか？

チーム員全員で活動内容を整理しながら今後の高知県DWATのために何ができるか、どのような取組が必要なのかを考え、関係者等に派遣報告会という形で報告しました。

また、平時の研修の中で派遣報告の場を設けていただいたので、そこで改めて高知県DWATのチーム員と活動内容を共有しました。



今後の高知県DWATの
課題や展望を教えてください。

高知県DWATとしては、今回が初めての派遣活動だったので、派遣経験のあるチーム員は11名のみです。経験値という面ではやはりまだまだです。派遣されるような災害がないことが一番ですが、いざというときに備えて今回の経験をしっかりとチーム員に伝えていくことが重要だと考えています。

また、南海トラフ巨大地震を想定したとき、自分たちが応援を受ける側になり、高知県DWATの活動体制の強化と合わせて、受援する力も求められます。高知県で被災したときにしっかりと他県チームを受け入れ、さらに自分たちも地元で活動できる体制を作ることが必要だと思います。

また、DWAT自体の認知度はDMAT(災害派遣医療チーム)等と比べるとまだ高くはありません。私たちがしっかりと現場で活動できるようにするため、市町村行政をはじめ、地域住民の方に高知県DWATの存在をアピールしていきたいです。

高知県DWAT、チーム員に聞く

高知県DWATが初出動ということもあり、第1クールของทีม員は、県庁での出発式にも参加してもらいました。

現地に向かうまでの不安はありましたか？

初めての派遣だったので、すごく不安でした。研修は毎年受講していましたが、いざ被災地に行くとなると、自分に何ができるのだろうという思いが大きかったです。

避難所の中では1つの支援チームとして求められることがあるので、一緒に派遣されるチーム員や事務局と連絡を取り合い、活動をイメージしながら準備しました。



研修でイメージするものと、実際に被災地で活動するのでは全く違うと思います。現地ではどのような活動を行いましたか？

高知県DWATは3月1日～16日までの2週間程度、活動しました。限られた期間でしたので、まずは派遣された避難所内でどんな人が生活しているのか情報収集を行い、それらを避難所内のマップに落とし込みました。

その活動と併せて子どもたちと一緒になんでも相談コーナーの看板を作り、困りごとの確認ができる体制をつくっていきました。

日々避難所内を巡回しながら、避難している人たちの健康確認を行い、必要に応じて様々な対応を行いました。たとえば、自分の健康状態の確認がしたいという要望もありましたので、事務局に体重計と血圧計を用意してもらい、避難者の方が自分の体調を確認する環境を整えました。また、生活不活発病予防のための体操を取り入れたりもしました。

そのほかには、子どもが多い避難所だったので、日々子どもたちとコミュニケーションをとったり、共有スペースで談笑している方たちと一緒に話したりしながら、DWATに声をかけてもらいやすいような環境を作ることも意識しました。

苦労したことや感じたことはありますか？

一番大きかったのは、研修とのギャップです。現場の空気感はもちろんですが、研修はあくまでも訓練なので、状況設定がされていて、情報もある程度そろっている状態で臨むことができます。

ところが、現場では、その最初の情報収集すらうまくいかないこともあります。誰が情報を持っていて、どの人とコミュニケーションを取っていけばいいのか。避難所内の支援者の関係性等も感じながら活動基盤を作っていくことになるので、臨機応変に対応できる現場力がすごく必要だと感じました。

また、避難されている方一人ひとりの言葉の重みが違いますし、想像もできない経験をされた方に対して私たちが簡単にこんなことを言ってもいいのだろうかと思ひながらの相談対応になります。想像していた以上に重たいものを感じましたし、日常の業務とは全く違うものだと思いました。

でも、避難されている方とお話するなかで、過去の楽しかった経験や地元ならではのお話をたくさん聞かせていただき、ありがとう、頑張ると声をかけてもらいました。支援に入っている立場ではありましたが、本当に力強く励ましていただき、現場でないと感じられないものを得られたような気がしています。



つながる・ひろがる、セカンドライフ。シニア世代の生きがい・健康づくり。

シニアのちょっとした話

vol.13

シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。

こうちシニアスポーツ交流大会2025

「ねんりんピック」の予選会も兼ね、毎年開催される「こうちシニアスポーツ交流大会2025」。

本大会は、シニアに適したスポーツなどの競技を通じ、シニア同士の交流の輪を広げ、積極的な健康と生きがいがづくりを推進しながら「ふれあいと活力に満ちた長寿社会」の形成を図ることを目的に開催されています。

今年も4月から5月にかけ、全20競技が春野総合運動公園や県立弓道場など、県内各地で開催されました。

会場では参加選手の皆さんのいきいき、キラキラとした姿を見ることができ、熱戦が繰り広げられました。

開催日	種目
4月12日(土)	健康マージャン
4月20日(日)	囲碁
4月26日(土)	剣道
5月7日(水)	ペタンク
5月8日(木)	水泳、マラソン、ゲートボール、ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフ、太極拳、ソフトテニス
5月9日(金)	パークゴルフ ※雨天により22日(木)に順延開催
5月11日(日)	ボウリング、バウンドテニス、ソフトバレーボール
5月15日(木)	ソフトボール、テニス、卓球
5月17日(土)	弓道
5月18日(日)	将棋



健康マージャン

認知症予防にもなるといわれている健康マージャン。相手の手牌を予測しながら作戦を考え攻守を繰り返しますが、局面によっては柔軟に作戦を変え戦うことも求められる奥深いゲームです。個人戦とチーム戦があり、男性46名、女性26名の計72名が参加しました。



剣道

男性18名、女性7名の計25名が参加。試合会場では気合に満ちた選手の声が響き、迫力ある試合が繰り広げられました。試合後に「ありがとうございました」という言葉で締めるところに、礼儀を重んじる剣道の競技性の一端を感じます。毎日夕方に県立武道館で誰もが練習できる環境を整えているそうです。



ペタンク

「ビュット」という目標球まで金属製のボールを投げ合い、より近づけることで得点を競い合う競技。ほんの数ミリの違いで得点が決まるため、最後まで勝つチームは分からないのがペタンクの面白さだとか。10チーム計30人が参加し、和気あいあいと競技を楽しんでいました。



マラソン

5キロ部門に11名、3キロ部門に15名が参加しました。日常的な練習が記録をのばす秘訣だそうで、ある選手の方は「走ると苦しいが、健康と体力づくりのためには続けていかないとハッラツした笑顔で話してくれました。シニアになっても走ろうと思う心意気が素敵です！



ターゲットゴルフ

ホールを狙うゴルフと違い、羽のついたボールをカゴへ入れてその打数を競い合うゲームで、男性12名、女性7名の計19名の選手が参加。2打で入る「イーグル」が決まると歓声があがります。県内各地にターゲット・バードゴルフのクラブがあり、体験教室等を開催しています。



ソフトテニス

競技はダブルスで行われ、互いに声を掛け合ったりカバーしあいながら、隙を狙って打ち込んでいきます。ミスを少なくラリーを続けることで、ストレス発散にもなるそう。子どもや孫がソフトテニスをしていて、家族で楽しむこともできるんですと、ある選手の方が話をしてくれました。30名が参加しました。



ゲートボール

男性3人と女性2人が1チームになり、常に相手より有利にボールを配置し、最後のゲートまでボールをつないでいくことが求められるゲートボール。技術力と作戦力、そしてチームワークが必要で、試合時間が30分間と長いことから体力も必要とされています。5チームが参加しました。



ソフトバレーボール

男女混合の4名でチームを組んで試合に臨みます。ボールは柔らかく、強く打っても痛くなく怪我もしにくいことから、シニアになっては始める方もいそう。チーム全体で声を掛け合ってカバーしあいながら勝利を目指します。打ち込まれたボールをいかに拾うかが大切なのだとか。



太極拳

男性6名、女性58名の計64名14チームが参加しました。当日はチームそれぞれで選んだ楽曲に合わせて凛とした立ち振る舞いで演武を披露。呼吸に合わせてゆっくりとした動作を行っていきませんが、チーム全員の動作が揃うその様子はとても印象的です。

福祉の仕事への関心を高めるために、小・中・高校生といった若い世代を含めたより幅広い県民の方々に対して、福祉の魅力・未来・可能性を発信していく体験型イベントを開催します。

〔開催日〕令和7年10月18日(土) 10:00～16:00

〔場所〕イオンモール高知 1階

南コート/セントラルコート、2階 イオンホール

高知市秦南町1丁目4-8

〔問合せ先〕高知県福祉人材センター

TEL:088-844-3511

E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp



ふくしフェア2025を
イオンモール高知で開催!!

第76回高知県社会福祉大会を
開催します!!

多年にわたり本県の社会福祉の発展に功績のあった方々への顕彰と併せて、社会福祉の更なる向上を図ることを目的として、高知県社会福祉協議会では毎年高知県社会福祉大会を開催しています。

今大会では、人口減少が進んでいくなかで、これからの地域の担い手や福祉人材の確保をテーマとして、県内での取組の実践発表やディスカッションを行い、今後の人材確保の取組の強化を目指すことを目的に開催します。

〔開催日〕令和7年11月19日(水) 12:30～16:00

〔場所〕高知県立ふくし交流プラザ

高知市朝倉戊375-1

〔問合せ先〕高知県社会福祉協議会 総務企画課

TEL:088-844-9007

E-mail: plaza@pippikochi.or.jp



県内の保育職場が一堂に介して、就職したい方(新卒者、他分野からの転職希望者、再就職希望者等)との保育の仕事に関する相談会を開催します。

〔開催日〕令和7年9月13日(土)

13:00～16:00

〔場所〕高知県立ふくし交流プラザ2階

多目的ホール 高知市朝倉戊375-1

〔問合せ先〕高知県福祉人材センター

TEL:088-844-3511

E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

保育のお仕事フェア就職相談会を
ふくし交流プラザで開催します!!



高知県社協からのお知らせ

プラット こうち VOL.13

やりすぎるくらいにやったらう!! 人とのつながりを大切に 若い力で高知に貢献したい 高知清掃隊 代表(高知工業高校 土木科) 山本稜平さん (18)

高校生ボランティアとして活躍する山本稜平さんは、高知市内で清掃活動に励んでいます。

ボランティア活動の主な内容

『高知清掃隊』は、代表の山本さんを中心に高校生4名で運営される学生ボランティア団体で、主に中学生や高校生が中心となり活動している。主な活動は、河川の清掃活動やイベント会場でのゴミステーションの運営などで、高知市内を中心に地域の清掃活動に積極的に取り組んでいるという。

活動のきっかけ・広がり

「はじめたきっかけは、暇だから。それだけの理由で始めました。もともとは科学部でロボット関係のことをしていて、部活の合間や大会の後に空き時間があったので、みんなで校内の側溝を掃除し始めたのがきっかけです。」

友人と始めた小さな清掃活動が広がり、令和2年に高知清掃隊の前団体である「掃除部」が結成された。その後も校内の清掃活動が続いていくうちに「もっと活動の幅を広げたい」というメンバーが集まり、高校進学をきっかけに「高知清掃隊」が結成された。その後は、友人からの誘いや高知清掃隊ホームページ、SNS、ビビネットなどを通じて参加メンバーが増え、現在は25名ほどの学生ボランティアが参加している。活動が広がったことで、地域や行政の人などたくさんの人と関わる機会が増え、土日のほとんどはイベントに呼ばれる。年2回は大きなイベントにも参加し、年間を通して

企画にも携わり、彼らの大きなやりがいとなっている。

これまで一番大変だった活動は、よさこい祭りのゴミ拾いとのこと。高知は都会と比べるとゴミが少ないと言われているが、イベント後は放置ゴミなどがかなり増えており過酷な作業だという。

ボランティア活動を通して感じたこと

山本さん自身も「高知が好きなので、なにかの形で返ししたい」という思いから、現在まで活動が続いている。また、活動を通してボランティア活動に興味を持ち、何かしてみたい、という熱意をもっている高校生もたくさんいると感じていることを教えてくれた。

これから活動を始めたい方へ、まずは興味のある活動に参加してみる、ツテを作ってつながりを広げていく、広げた先にも人とのつながりが生まれるとエールをもらった。

代表として、個人としての悩み

「とにかく毎日忙しい。学校以外で友達と遊んだり部活に参加する時間もない。皆のように学校に残っ



てワイワイしてみたいなと実は思っています。」高知清掃隊の活動で多忙な日々を送り、時間が足りないそう。今一番欲しいものは友達と遊ぶ時間と、高校生らしい悩みも教えてくれた。

また代表の立場として、活動を次の世代に引き継げるか、参加メンバーがもう少し増えないかと、高知清掃隊の活動を続けるための悩みも尽きない。

今後の活動・将来について

「今後も活動が続けていきたい。やりがいや達成感があるので趣味になりつつあるんです。」と笑う。団体だからこそできること、学生団体ならではの達成感もあり、熱意がある学生たちが集まっているため、活動が決まった時に大人の応援も凄いい。色々な面で支援してくれるので活動しやすい環境ができていく。とにかく色々な場所に行つて人とのつながりや縁を大切にしながら活動を広げていきたいと今後の活動への意欲を明かしていた。

一方で、小学生の頃から土木に興味を持ち、今もその気持ちは変わらないとのこと。今年は大学受験もあり、進学を視野に勉強にも余念がない。ただ、今の活動をもっと広げてみたいという思いも。やりたいことをやつてから、最終的に自分が好きなところに行けたらいいなと、将来に向けた学びを深めるための思いについても最後に話してくれた。

会長就任あいさつ

このたび、令和7年6月27日付けで、高知県社会福祉協議会の会長に就任いたしました井上浩之です。急速に進展する少子高齢化や人口減少、物価高騰などにより、地域の方々が抱える生活課題が複雑化している中、また、大規模な自然災害が頻発化している中で、地域福祉の中核を担う組織である社会福祉協議会の会長という重責に改めて身の引き締まる思いです。

本会では、令和6年3月に中長期的な地域福祉推進ビジョンである「第2期高知県地域福祉活動支援計画」を策定しており、計画の目標に掲げております「地域で誰もが安心して暮らせる持続可能な地域づくり」を目指して、職員とともに各事業に積極的に取り組んでまいります。

今後とも、県内の関係する団体・機関の皆様と目指すべき方向性を共有したうえで、しっかりと連携・協働しながら、本県の福祉の更なる充実に向けて努力してまいりますので、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



井上浩之



就労支援センター「らいふ」

就労支援センター「らいふ」は、高知市から車で西へ約40分、須崎市街の入口に位置し、茶色の壁面にイタリアの三色旗の意匠が映える建物で、高知県産の農産物を使った焼き菓子や冷凍菓子、ギフト商品の製造販売を行っています。『障害のあるなしにかかわらず、一度きりの人生をその人らしく』という理念のもと、作り手・お客様・地域の方々みんなが笑顔になれるような活動を続けています。

一番人気のクリームブリュレは、ひまわり乳業の「高知の牛乳」を使用しており、素朴で優しい味わいが好評。まろやかなミルクの風味とカラメルのはろ苦さが絶妙にマッチしています。クランブルチーズケーキなどチーズ系のお菓子も人気があるほか、毎月第2・第4金曜日限定のプリンもおすすめ！イベント出店や出張販売も相談可能です。ぜひお問い合わせください。



(社福)高知県知的障害者育成会
就労支援センター「らいふ」
高知県須崎市吾井郷乙1834-4
TEL:0889-42-2935(担当:市川)

こうちの sweet なハナシ

社会福祉施設スイーツ図鑑



特定非営利活動法人 梶原竹ぼうきの会
高知県高岡郡梶原町梶原1437
TEL:0889-65-0320(担当:矢野)

四国カルストの豊かな自然に囲まれた梶原町。この町で活動するNPO法人「梶原竹ぼうきの会」では、誰もが安心し、助け合いながら暮らしていける地域を目指し、PPバンドを使ったかご作りや、クッキー・ケーキの製造等に取り組んでいます。接客や計算に不安のある利用者も、仲間や職員と支え合いながらそれぞれの役割を担い、作業を通じて少しずつ自信を育んでいます。

毎朝手作りしているチーズケーキは、素朴ながらコクのある味わいと重厚な食感が特徴。多くの来館者が訪れる「雲の上の図書館」内にあるカフェ「ほうきぐも」でも提供されており、地域の方々との交流の場にもなっています。活動を通して、人と人がつながり、地域に開かれた事業所として歩みを進めています。

梶原竹ぼうきの会



社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

【お車でお越しの方】高知駅より車で約20分、高知 IC より車で約30分、伊野 IC より車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場:普通乗用車で約180台駐車できます
【公共交通機関でお越しの方】最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

